

# 絵画で社会とつながろう！



障がいのある人が  
才能を伸ばし

社会参加を目指す場所

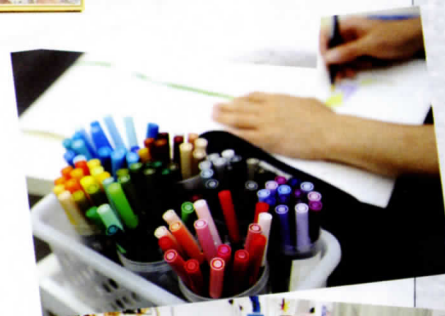
文化芸術を享受し、文化的な環境の中で生きることは、私たちの生活に欠かせない要素のひとつです。

文化芸術は、人々の創造性を育むと共に、人と人との心の繋がり、お互いに尊重し合う心豊かな社会の土台となるものでもあり、これはいつの時代においても変わらないものです。

東京都北区にある「あいアイ工房」は、障がいのある人たちが絵画を通じて、自立し、社会参加を目指す就労継続支援B型事業所です。

ここでは障がいのある人たちが個々の持つ才能を伸ばし、絵画で自立した生活を送るための専門的な訓練を提供しているといいます。

同所を訪ねて、代表の粟田千恵子さんにお話を聞いてきました。







特定非営利活動法人あいアイ／理事長  
あいアイ工房／代表  
粟田千恵子さん  
あわたちえこ

## 絵画に特化した理由とは？ 日中活動系サービスとは？

編集 「あいアイ工房」さんが提供している福祉事業の概要を教えてください。

粟田 障がいのある人たちが絵画を通じて自立し、社会参加と一般就労を目指すための就労継続支援B型事業所になります。

編集 なぜ、絵画に特化した事業所となったのでしょうか？

粟田 障がいのある人たちは特別支援学校卒業

後の進路として、何らかの福祉作業所などに通所することが多いのですが、そこで貰える賃金とても低いんですよ。

編集 年々、賃金(工賃)は上昇気味だとは思いますが、とはいえ、まだまだ高いとはいえないのが現状だとか。

粟田 そうなんですよ。その賃金の低さに私は驚いて、「このままで良いのだろうか」とずっと考えていました。

編集 なるほど。それで最終的には絵画に可能性を見い出したという事ですか？

粟田 はい。元々、私がやっていた絵画教室では障がいのある人たちの絵画が1枚で5万円以上の値段で売れていました。「絵画を仕事にすれば障がいのある人たちが自立した社会生活を送れるのではないか」と考えてNPO法人を作ったのが



始まりになります。

編集 こちらでは「日中活動系サービス」を提供しているとのことですが、これはどんな内容なのでしょう？

粟田 一般企業での就労が困難だという人たちに働く場を提供したり、障がいのある人たちが自立した日常生活や社会生活を送れるようになるための基礎的な訓練などを行っています。

編集 「基礎的な訓練」とは何ですか？

粟田 例えば、ここには知的障がいのある人も多く通っていますが、その中には挨拶を覚えるということが難しい人もいます。その人たちに、まずは挨拶から覚えてもらうようにしています。

編集 挨拶は基本ですよ。

粟田 はい。根気よく繰り返し教えることで成果が見えてきています。



あいアイ工房／NPO法人あいアイ  
東京都北区田端新町3-36-6  
TEL / 03-6807-6622  
<http://ai-ai-art.jp/>



※編注／記事中の表現は被取材者個人の感想や意見であり、一般財団法人メルディアおよび広報誌MELDIAの公式見解ではありません。





## プロとして仕事をするため 独自のプログラムで指導を

編集 ここではどのような方法で絵画の指導をしていますか？

栗田 月・火・水曜は私の指導の下で、絵画のモデルとなるものをじっくり観察して作品制作に臨んでもらうという取り組みをしています。

編集 「じっくり観察する」というのは、モチーフとなるもののディテールを正確に把握するが大切だからという事ですか？

栗田 その通りです。プロとアマチュアの違いは



「正確さ」にあると思うので、とにかくじっくり観察してもらい、そのモデルの細かい特徴や色などを描けるように指導しています。

編集 なるほど。そうやってプロとして活躍できる作家の育成をしているんですね。他の日はどのような内容の指導をしていますか？

栗田 水曜の午後は、モチーフを短時間で簡潔に描くクロッキーの練習をします。木・金曜は、基礎ノートを使った練習や作品制作の続きの仕上げ、授産品(※)の作業などを行います。

編集 具体的にはどんな作業ですか？

栗田 ここではオリジナルのお茶を販売したり、お茶の卸販売もしています。そのお茶のラベルに利用者さんたちが描いた作品をプリントして使っていて、そのラベルを貼る作業などを行っています。

編集 自身が描いた作品が製品のラベルに採用されるとしたら、やりがいも生まれますね。

※授産品(授産製品)／障がいのある人たちが一般企業などへの就労を目指して自立した生活を営めるようになることを目的とした作業訓練の一環として製作した製品のこと。





栗田 そうなんです。ひとつずつ違う絵画のラベルにしているので、お茶を購入される人たちの中には「どれにしよう」と迷う人もいます。

編集 指導や訓練を受けてからの利用者さんたちには何か変化は見られましたか？

栗田 現在、5名が企業の専属画家として就職しています。その人たちを目標にして、「希望を持って通えるようになった」という利用者さんが増えました。また埼玉県川越市には私たちの法人が運営する「あいアイ美術館」がありますが、ここ（北区）と川越市との間を電車を利用しての移動が出来るようになった人もいます。

## いつ誰がどこでも体感可能なバーチャル美術館を開設予定

編集 一般財団法人メルディアと本誌MELDIAが主催したアート展「BORDERLESS（※）」にも、この利用者さんである、画家の伊藤大貴さんと青木正臣さんの作品が展覧されましたよね。

栗田 はい。伊藤さんの「雪が降る」という富士山を描いた作品と、青木さんが自身のお母さんを描いた作品「おかあさん」作品などを展覧させていただきました。

編集 アート展の会場へは「あいアイ工房」の皆さんで観に行かれたと聞きました。

栗田 そうなんです。利用者さんの中には他のアーティストさんとお話しもできて、交流ができたことをとても喜んでいらっしゃる人もいました。

編集 他のアーティストの人と交流を持つことが創作活動の刺激にもなりそうですよね。

栗田 はい。アート展の見学が、彼らのとても良い経験になったと思います。

編集 コロナ禍の状況ではアート展などがなかなか開けない状況もあると思いますが、今後の展望などがあればお聞きしたいです。

栗田 リアルに展示が観られないという状況を鑑みて「バーチャル美術館」を開設を準備しています。

編集 先に開催したアート展「BORDERLESS」でも3Dバーチャル（VR）アート展の試みを取り入れていましたが、世界のどこにいても、いつでも、自由にアートを観ることができるとするのはVRの強みですよ。

栗田 障がいのあるなしに関係なく、現在のようなコロナ禍の状況では外出を自粛する人たちも多いと思います。また、障がいのある人たちの中には自律的に外に出かけられない人たちも多いと思います。以前から、いつでも自由に、誰でも、時間に関係なく、アートを鑑賞できるように仕組みがあれば良いなと考えていました。だから、アート展「BORDERLESS」で行われていた手法を踏襲したバーチャル美術館を実現できれば、と考えています。

## AIAI MUSEUM

あいアイ美術館 (NPO法人あいアイ)  
埼玉県川越市市場北1-17-3  
TEL / 049-277-7872  
<http://aiiai-art.jp/>

